様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １０ 日現在

機関番号：１６２０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ００９４０

研究課題名（和文）知のグローバル化からみた18世紀末英露対日交渉の研究―大黒屋光太夫資料を中心に

研究課題名（英文）British and Russian interest in Japan under the knowledge globalization at the end of the eighteenth century, focusing on materials related with Daikokuya Kodayu

研究代表者
滝川　祐子（Takigawa, Yuko）

香川大学・インターナショナルオフィス・特命助教

研究者番号：４０５３２９３２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は18世紀末の日英露関係について調査したものである。特に鎖国政策下の日本に対するロシアとイギリスの外交・経済・地理・博物学的関心について、主に在外史料を分析して明らかにすることを目的とした。研究のためにドイツ、イギリスの研究機関を訪問し、地図、書簡、外交史料等を閲覧した。その結果、グリニッジの国立海事博物館に保管されていた大黒屋光太夫に関する日本図などの新史料を発見した。
　本研究の結果、この時代にイギリスは日本と外交関係がなかったが、日本に関する外交・経済面で高い関心を抱いていたことと、ロシアで得られた日本に関する情報を積極的に収集していたことを明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究は18世紀末、イギリスとロシアの対日政策について、大黒屋光太夫に関する在外史料を分析して明らかにすることを目的とした。本研究により在外資料を調査した結果、在英の日本関係の資料や、新出の大黒屋光太夫日本図などを発見した。さらにこの時代にイギリスが日本に対して高い関心を抱いていており、ロシアで大黒屋光太夫に由来する日本図を写し、本国に持ち帰っていたことを新史料から明らかにした。従来、大黒屋光太夫は日露交流史の枠組みの中で扱われていたが、本研究により、光太夫研究が新たにこの時代の日英露関係と極東における英露の競争を明らかにする鍵となることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：　The purpose of this research was to investigate British and Russian interest in Japan and the competition between these countries to access Japan at the end of the eighteenth century, focusing on diplomacy, economy and natural history. To achieve research purposes, I visited academic and research institutions in Germany and Britain and looked first-hand at source materials, such as maps, correspondence and diplomatic reports closely. These investigations resulted in the discovery of a map of Japan which had been stored among the Grenville Collection in the Caird Library and Archive at the National Maritime Museum, Greenwich. The map was identified as a map of Japan, which was precisely copied after one drawn by Daikokuya Kodayu in Russia and sent to Britain by Charles Whitworth, a British diplomat in Saint Petersburg. The map in Greenwich and diplomatic reports have revealed Britain's keen interest in Japan and Britain's intelligent activities in Russia at that time.

研究分野：18世紀末から19世紀初頭の東西交流史・博物学史

キーワード：18世紀末　日英交流史　日露交流史　大黒屋光太夫　日本図　対日通商交渉　英国国立海事博物館

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

今日、グローバリゼーションに関する歴史研究には、様々な専門のテーマの研究分野を軸とした学際的アプローチが用いられるようになってきた。日本のグローバリゼーションについての研究も、世界史的な動向、特に西欧諸国による貿易や植民地活動などの世界進出と関連付けた研究が行われている。

江戸時代の日本と西欧諸国との関係について、歴史上の史実、例えば実際に通商交渉のために来日した使節やその記録について、これまでも詳細な研究が蓄積されてきた。これまでの博物学に関する在外資料研究の結果、西欧の博物学の進展と江戸時代の鎖国体制下の日本との交渉が深く関わっていたことが明らかになってきた。日本が知のグローバリゼーションに組み込まれるプロセスを調べていると、よく知られている史実の背景についても、別の角度からの研究アプローチにより、新たに研究を進展させることが可能ではないか、と考えるに至った。

２．研究の目的

本研究の目的は、１８世紀後半、鎖国体制下の日本をとりまく西欧諸国の対日政策、特にロシアとイギリスの対日戦略を明らかにすることである。また、両国の日本使節派遣に関する政治･経済的背景と極東の覇権争いと、両国の博物学的目的を明らかにする。

３．研究の方法

申請時、研究はイギリスとロシアを中心とした在外資料閲覧を計画していた。しかしながら、研究２年度目および３年度目の新型コロナ感染拡大による国外渡航の禁止、そして３年度目のロシアのウクライナ侵攻によりロシアへの渡航は不可能となった。このため、在外資料の収集は主に１年度目に収集したドイツ資料とイギリス資料、４年度目以降に収集したイギリス資料を中心に資料の分析を行った。関連する資料を収集した研究機関は以下の通りである。

○海外資料
ドイツ：ゲッチンゲン大学図書館（ゲッチンゲン）
イギリス：北アイルランド公文書館（ベルファスト）
スコットランド国立図書館（エディンバラ）
大英図書館、国立公文書館、ウェルカム・インスティテュート（ロンドン）
オックスフォード大学ボードリアン図書館（オックスフォード）
国立海事博物館ケアード図書館（グリニッジ）

○日本国内：東洋文庫図書館

また渡航が不可能となった期間は、研究資料となる画像を取り寄せた。またオンラインによる国内および国際学会に参加し、関連する研究テーマを扱う研究者と意見交換を実施した。

４．研究成果

本研究の第一の成果は、大黒屋光太夫に由来する新資料の日本図の発見である。大黒屋光太夫は所持していた『節用集』系統の書籍をもとに、ロシアで日本図を作成していたことが知られている。これまでにドイツ、ロシア、エストニアで計７点の光太夫自筆の日本図が報告された。これまでの研究で英国国立公文書館が所蔵する外交文書を調査した際、イギリスの駐露公使ウィットワースがその正確な写しを作成し、本国に送付していたことが示唆された。そこで、本研究ではその内容を詳細に検討するとともに、その実物資料の所在を探した。その結果、イギリスのグリニッジの国立海事博物館ケアード図書館のグレンヴィル・コレクションにその実物が保管されていることを発見した。渡航禁止期間だったため、まずは画像を取り寄せ、確認し論文を執筆した。さらに渡航が可能となった後、現地で実物を閲覧し、細部や保管状況、収蔵の経緯などを調べた。

第二の成果は、同時代における大黒屋光太夫日本図の西欧における受容とその時期について、文献から再現を試みたことである。同時代の知識人の書簡、雑誌から大黒屋光太夫日本図に関する記述を調査した。さらに西欧人による日本近海の測量を伴う航海と航海記や地図の出版時期を検討した結果、光太夫日本図が当時は最新の日本海図情報と見なされていたこと、そしてその

時期が近代的な日本図が日本から西欧に流出する、少なくとも３～４年早い時期であったことを確認した。

第三の成果は、この時期のイギリスが極東への進出を画策しており、ロシアとの競争関係にあった中で、大黒屋光太夫と彼が持つ日本に関する情報をロシアから収集していたことを、グリニッジの大黒屋光太夫日本図の写しの実物により明らかにしたことである。また日本についての対日政策についての資料も得たが、分析とまとめについては研究を継続する必要があり、今後の課題である。

第四の成果は、文献資料の調査によって、当時の西欧の知識人が、日本について博物学的に高い関心を持っていたことを明らかにした。

第五の成果は、西欧知識人らが持つ情報のネットワークについての端緒を掴んだことである。この点については今後も研究を継続し、具体的なルートの解明と知識人ネットワークの再現を課題としたい。

従来、大黒屋光太夫については、アダム・ラクスマンを使節とするロシア初の遣日使節により、彼の送還を口実に通商交渉がなされたという史実をもとに、日露関係史の枠組みの中で捉えられてきた。本研究により、光太夫は同時代のイギリスにおいても、対日政策や情報収集に影響を与えていたことの端緒を掴むことができた。この時代の英露の対日関係と極東進出の競争について、今後も研究を継続する予定である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 滝川 祐子	４．巻 64
２．論文標題 新出の英国史料からみた十八世紀末の西欧における大黒屋光太夫日本図の評価	５．発行年 2022年
３．雑誌名 日本研究 = NIHON KENKYU	６．最初と最後の頁 159～197
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15055/00007813	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計10件（うち招待講演　2件／うち国際学会　7件）

１．発表者名 Yuko Takigawa
２．発表標題 The Scientific Value of the Daikokuya Kodayu’s ‘Map of Japan’ Copied by a British Ambassador in Russia in the Late 18th Century
３．学会等名 Horizon 2073: vers un siecle de recherches en sciences sociales sur le Japon（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Yuko Takigawa
２．発表標題 British Interest in Japan Revealed by the Reproduced Copy from Daikokuya Kodayu’s Map of Japan Made in Russia in 1793.
３．学会等名 The Tenth Conference of the European Society for the History of Science (ESHS) in Brussels (Belgium)（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 滝川祐子
２．発表標題 ラクスマンが日本から持ち帰った生物標本（1792-1793）：種の同定と生物学史上の意義について
３．学会等名 日本動物分類学会 第５６回大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Yuko Takigawa
２．発表標題 Reconstructing British and Russian envoys/expeditions to Japan at the end of the 18th century in relation to Daikokuya Kodayu
３．学会等名 26th International Congress of History of Science and Technology, Prague (Virtual Congress)（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 滝川祐子
２．発表標題 ラクスマンの日本産魚類コレクション（1792-93）：歴史背景とその意義
３．学会等名 2020年度日本魚類学会（ウェブ大会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 滝川祐子
２．発表標題 ラクスマンが日本から持ち帰った生物標本（1792-1793）：種の同定と生物学史上の意義について
３．学会等名 日本動物分類学会 第56回大会（ウェブ大会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Yuko Takigawa
２．発表標題 Reconstructing British and Russian envoys/expeditions to Japan at the end of the 18th century in relation to Daikokuya Kodayu
３．学会等名 26th International Congress of History of Science and Technology (26th ICHST)（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Yuko Takigawa
２．発表標題 Natural historians’ letters to reconstruct western diplomatic interests in Japan in the late 18th century.
３．学会等名 Scientiae: Early Modern Knowledge, 1400-1800（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yuko Takigawa
２．発表標題 Impacts of Kodayu's maps of Japan to the diplomacy, science and people of Europe and Russia.
３．学会等名 "Methods of Map Analysis and Their Application to the History of East Asian Cartography" hosted by Ecole des hautes etudes en sciences sociales（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年～2021年

１．発表者名 Yuko Takigawa
２．発表標題 Reconstructing British and Russian envoys/expeditions to Japan at the end of the 18th century in relation to Daikokuya Kodayu.
３．学会等名 The 26th International Congress of History of Science and Technology（国際学会）
４．発表年 2021年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

大黒屋光太夫顕彰会会報 大黒屋光太夫だより　58号（p. 1）に記事「イギリスで新出の光太夫資料に出会うまで」を寄稿（2023.4.1）

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関